

厚生南会館はどうなるの？ 代替施設は必要だと思います

十九日の総務常任委員会。厚生南会館をどうするのかで、議論が沸騰しました。市は、耐震診断の結果などから、十八年度で廃止の方向で、「利用者と代替機能について協議している」としています。議論は、「廃止はやむを得ないが、代替施設を」というのが多数ですが、「この場所に」という意見もあります。

八年前から消える運命だった

左下の図を見てください。八年前の平成八年に発表された「Jプラン」に掲載されている「高田城跡公園整備のイメージ」です。すでに「厚生南会館」はありません。二〇〇一年の「Jプラン2001」では、野球場もなくなっています。この頃から、「厚生南会館はなくす」というのが、既定路線だったことが解ります。この「Jプラン」を推進した議員らが今、「会館を残せ」などといっているのですから、時代が変わったものです。

「総論賛成、各論反対」という声もありますが、日本共産党は、「各論で反対だったら総論でも反対」ですし、「各論

賛成ならば総論も賛成」です。私たちは、この「Jプラン」を推進する姿勢はとってきませんでした。

「高田のシンボル」的施設

栗田議員が、「高田のシンボルの施設だ」と発言していましたが、そのとおりだと思います。

私は、城北中学で吹奏楽部に所属していました。当時、真新しい高田厚生会館で演奏会をやったことがあります。



「高田城跡公園整備のイメージ」 - Jプラン(平成8年)より

ですので、無くなることには一抹の寂しさを感じます。

今は他の施設に一部役割を譲りましたが、長い間、高田の「文化発信の基地」だったと思います。その役割を果たす代替施設がどうしても必要です。

利用者だけでなく市民の声も

昨今上越市はいろんな施策を展開するとき、専門家や市民による「検討委員会」というのをつくって市民の声を聞くようにしています。しかし、厚生南会館の廃止でも高陽会館の廃止でも「利用者の要望」は聞いているようですが、公募市民も交えた検討委員会は一つ一つとつて、厚生南会館は、「帯とたすき」の中間的な役割を果たしていますから、代替機能といっても一筋縄ではいきません。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2006年9月24日 118
発行 杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832